

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 西新教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が清潔で心地よく過ごすことができる環境になっており、生徒に合わせて環境を設定している。	毎日掃除や除菌を行うことで生徒が来る前に清潔な環境を作るよう心掛けている。 また、自由時間に使うおもちゃや絵本などもリクエストがあればそろえるようにしている。	今後も掃除や除菌等は行っていき、清潔感ある教室を目指していきたい。さらに生徒が教室をしっかりと活用出来るように机の配置などにも注意していきたい。
2	ミーティングを通して生徒の情報を共有し、教室全体で連携が取れるようにしている。	毎日のミーティングの中で前日の生徒の様子やトラブル等を共有し、次回どのようにしてトラブルを防ぐか、どのように生徒と関わっていくか情報交換を行っている。	教室間だけでなく契約教室全体で生徒の様子や情報を交換していき、よりよい支援に繋げていく。
3	虐待防止、嘔吐物処理などの感染対策、安全管理や緊急時の対応など研修や情報共有を行い職員全員が対応できるよう心掛けている。	研修を行った後にやり方に違いはないか、昨年と変わったところはないかなど確認し職員全員の認識を統一している。	今後も研修等続けていき、実際に起こった時にどう行動するかなどロールプレイも兼ねていきたいと考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室内全体のスペースが狭く、利用生徒が多い日は1人当たりの活動範囲十分確保できない日程がある。	教室内全体のスペースが狭く、1つ1つの部屋もスペースを確保するためには十分な広さがないことが要因の一つであると考え。	職員が十分に見守りを行える時は、1つの部屋ではなく2～3の部屋に分けて生徒に過ごしてもらっている。
2	死角が発生する場所が多い。 1階と2階を生徒の利用スペースとして使用しているため、送迎等で職員が少ないときは利用を制限せざるを得ない場合がある。	教室の作りの影響で全ての部屋を見渡せる場所が少ない。1階と2階で活動を分ける場合があることも要因の一つであると考え。	死角が発生し、待機している職員が十分に生徒を見守れない場合は、自由時間を過ごす生徒、学習をしている生徒を集めて他職員が送迎等から戻ってくるまで1つの教室内で見守りを行う等工夫している。
3	第三者からの評価や研修を通しての振り返りを等を通じて業務改善等に活かしていない。	職員一人一人が様々な業務を行ってもらっているなかで、研修や外部からの評価に対して、振り返りや業務改善を行うにあたっての話し合いの時間が取れていないことが要因であると考え。	ミーティング等で振り返りの時間を設けるなど、業務改善の為に話し合いの時間を書く方していく。